

研究協力をお願い

昭和医科大学藤が丘病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

非代償性心不全患者における心不全治療薬投与後のループ利尿薬減量の関連因子および予後への影響

1. 研究の対象および研究対象期間

2020年11月1日から2023年12月31日に昭和医科大学藤が丘病院循環器内科に心不全で入院した患者さん

2. 研究目的・方法

心不全とは、様々な原因で心臓の機能が低下し、呼吸苦や浮腫など症状の増悪を繰り返すことで心臓の機能が衰え、生命を縮める病気です。心不全は死亡率や再入院率が高く、早期から適切な薬物治療を行っていくことが重要です。

心不全の薬物治療では、心臓の機能を助けたり、心臓への負担を軽減するような数種類の内服薬を組み合わせることで長期的な治療を行っていきます。これらの内服薬に加え、呼吸苦や浮腫など、体に水分がたまることによって生じる症状を改善するために、ループ利尿薬という薬を使用することがあります。ループ利尿薬は、体にたまった水分を尿として排泄することで、浮腫を改善したり、心臓にかかる負担を軽減することができます。ループ利尿薬は、服用してから短い時間で強力な作用が現れるため、心不全が増悪した時などに使用することもあります。しかし、ループ利尿薬を長期で使用することにより腎臓や交感神経に負担をかけ、心不全の予後を悪くする可能性があります。現在、ガイドラインで推奨されている心不全治療薬は、心機能の改善によりループ利尿薬を減量できる可能性が示されています。しかし、心不全治療薬を服用して退院した患者さんのうち、どのような特徴をもった患者さんがループ利尿薬を適切に減量できるのか、詳細はよく分かっていません。

そこで、本研究では、ループ利尿薬を服用したまま退院した心不全患者さんを対象に、ループ利尿薬を適切に減量できる因子を明らかにすることを目的としています。ループ利尿薬を適切に減量できる因子や予後への影響が明らかになれば、心不全に対する適切な薬剤使用や、適切なループ利尿薬の投与量決定などに貢献できると考えています。

3. 研究期間

昭和医科大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから 2027年 3月31日まで

4. 研究に用いる試料・情報の種類

診療録から、年齢、性別、体重、喫煙歴、喫煙指数、飲酒歴、基礎疾患、既往歴、心不全の分類、ペースメーカーの有無、経皮的冠動脈インターベンション歴、心エコー検査結果、心不全での入院歴、血液・尿検査値、薬剤を調査します。

5. 外部への試料・情報の提供

本研究で取得した診療情報は研究責任者が個人の氏名、生年月日、電話番号、また診療情報等の個人を識別できる情報を削除し、研究用のIDを付与することで符号化します。符号化した診療情報は外付けハードディスク内に保存され、昭和医科大学藤が丘病院薬剤部施設内、および昭和医科大学薬学部臨床薬学講座薬物治療学部門施設内に保管されます。

6. 研究組織

研究責任者 昭和医科大学薬学部臨床薬学講座 薬物治療学部門 向後 麻里

7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属： 昭和医科大学 薬学部 臨床薬学講座 薬物治療学部門 氏名：花澤 聖

住所： 〒142-8555 品川区旗の台 1-5-8 電話番号： 03-3784-8221

研究責任者：

所属：昭和医科大学薬学部 臨床薬学講座 薬物治療学部門 研究責任者：向後 麻里